

総務委員会 県内調査活動状況

1 日 時 平成22年5月21日(金)

2 出席委員(8名)

委員長 鈴木 幹夫

副委員長 河西 敏郎

委員 渡辺 亘人 武川 勉 石井 脩徳 堀内 富久

樋口 雄一 小越 智子

欠席委員 前島 茂松

地元議員 出席者なし

3 調査先及び調査内容

(1) 【山梨県警地域課航空隊】

○調査内容(主な質疑)

問) ヘリコプターに搭載されるカメラのことでお聞きするが、オートトラッカーという機能は目標を自動的に追いかけるとのことであるが、これは、赤外線などで目標をキャッチするといったシステムなんですか。

答) このオートトラッカーは映画などでご存じかと思うが、これはロックするとそのまま追跡するといった仕組みである。これは、赤外線ではなくて、画像そのものに対して、反応してチェックするといった機能になっている。

問) そうすると、例えば、車を追いかけるとか人を追いかけるとか、そういうことになると思うが、最初にポイントとなる画像を設定したら、その画像を追いかけていく仕組みなのか。

答) そのとおりである。

問) 有事の際の出動についてはもちろんだが、日常的にはどのような訓練、活動を行っているのか。

答) 通常の活動については、大きく分けて、警らとか犯罪捜査等があるが、その間を利用して、救助訓練や県で行われる訓練などに出動している。

問) 週に何回訓練を行うといった、年間スケジュール等が計画されているか。

答) 毎月、航空運行計画を立てているので、その計画に沿って訓練とか警らを実施している。ただ、事件等が発生したときには、出動することとしている。

問) 今説明いただいた、経過報告の中で、少し感じたのだが、災害など有事の際には、時を選ばすということで、天候不順、あるいは夜間に出動する時があると思うが、その出動に際しては、どのような配慮で安全性を確保し、また効率化を図っていくのか。

答) 夜間あるいは、荒天の際にはフライトそのものが難しいので、そういうときにはフライトはしていない。出動体制については、通常はパイロットと整備士が勤務しているが、土曜、日曜、夜間は勤務していないため、宿直体制をとっている。

従って、何か起きた場合、特に土日の昼間にはパイロットと整備士を呼び出して、出動させることとしている。

問) 救助のために出動し、例えば病院へ運ぶとか、手当をするなど、救助した後の処理は、どのような状況になっているのか。

答) 救助した場合は、救助した周辺で、例えば救急車に待機してもらうとか、場外離発着場とか、救助の場合にはどこに着陸するのか決まっているので、そこに救急車に待機してもらって、搬送するといった形をとっている。

問) 通常 of 運航計画があるとのことであるが、何かあったときには出動していると思うが、通常はどのようなことをしているのか。運航計画というのは、1日にどの位フライトするのか、またどの地域をフライトするのか決まっているのか。

答) 計画の中で決まっており、多いときで午前中に2時間、午後2時間、警ら活動を計画している。

問) 午前と午後2時間ずつ警ら活動を毎日行っているとすると、何か犯罪が発生した場合には、そのヘリから本部に通報がいくのか、それとも本部からヘリのほうに連絡し、現場へ向かうように指示をするのか、その点はどうなっているのか。

答) ヘリコプターにも、無線が整備されている。警らを行う場合には開局を行うため、指令室と連携が可能となり、事件が起きた場合には、交信内容を傍受できるようになっているので、内容に応じて、例えば空からの捜査、追尾が必要であれば、現場へ直行する。

問) 通常のパトロール中には、カメラはずっと作動しているのか。

答) 必要なときに、作動させている。



※ 山梨県警地域課航空隊で説明・質疑を行った後、新ヘリコプターテレビシステムの視察を行った。

(2) 【消防学校】

○調査内容（主な質疑）

問) 平成27年4月の開校を目指して整備していくことから、いろいろな手続きをして、24年度頃から用地買収を実施していくこととなると思うが、今のところどのような状況になっているのか。

答) 今年度は、周辺地の測量とボウリング調査を実施することとしており、周辺の地権者の方々に、事業内容を説明して、測量と調査を行う予定である。その上で、地権者の方々の意見も聞いて、最終的に取得地を決定するわけであるが、実際には北側の住宅がある場所については、現実的でないと考えている。西側の砂利のプラントがあるところ、また、南側と東側は農地がまとまってあるので、このところを買収していくことになる

うかと思うが、西側だと道路に面しているので、メリットがあると思う。今年度はとにかく、周辺の地権者全てに説明をして、調査をさせていただく予定である。

問) 周辺の地権者に説明をするとのことであるが、今のところ説明するお願いはしていないのか。

答) 地元である中央市にも仲立ちをお願いしており、今のところ6月くらいを目途に、地権者の方々に説明する予定である。

問) たいへん老朽化している施設であるため改築するわけであるが、周りの地権者の方々から理解が得られるように、丁重に対応して欲しい。

問) 消防学校が新しく整備されることにより、今の教育訓練体系は変わるのか。
また、いろいろな新しい施設をつくると、訓練課程も変わるのか。

答) 施設が新しくなった場合、水難救助など今まで実施していなかった課程が増える可能性がある。カリキュラムについては、新たな施設の整備に併せて改定していく。

問) 課程が増える場合、現在消防学校に勤務する職員は8名とのことであるが、職員数が増えるのか。また、この学校で訓練を受ける46名の消防職員の数は増えるのか。

答) 職員の定数は国の基準で決まっているので、職員を増やすことは不可能だと思う。
それから、46名は初任教育を受ける消防職員の数であり、団塊の世代の大量退職が終了するあと5～6年は50名前後で推移すると思われる。

問) ということは、新しい訓練が導入される消防学校になって、消防職員や消防団員は増えていくのか。また、その数をどのくらいと見込んでいるのか。

答) 消防職員については市町村等の条例で定数が決まっているので、おそらく各消防本部では、定数は増やさないと思う。

問) 消防学校で学んでいる消防職員の人数はどのくらいか。

答) 本日現在、今年4月1日付けで採用された消防職員46名が初任教育を受けている。
また、専科教育の幹部科が14名ということで、2週間の教育訓練を受けている。

問) 消防職員の中に、女性の職員は何人いるのか。

答) 本年度の採用者の中に、女性消防職員はいないが、県内には4名の女性消防職員と3

6名の消防団員がいる。

問) 訓練内容については、男性と女性で違ってくるのか。

答) 男女とも全く同じ訓練を行っている。

問) 6ヵ月経過し、現在研修を行っている46名の消防職員の研修が終了した後、寮については利用されないのか。寮はいつ利用されるのか。

答) 今のところ、初任教育訓練生が4月から9月まで利用している。

問) 年間とおして利用されているのか。

答) 現在、宿泊施設は、4月から9月まで初任教育で利用している。新たな学校整備後は、救急科で10月から12月にかけて利用することとなる。このため、1月から3月までは宿泊施設は利用されないこととなる。



※ 消防学校で説明・質疑を行った後、学校内施設及び防災安全センターを視察した。

以上